

心記想伝

～求められる葬儀社の在り方～



私たちが携わる葬祭業については二極化がすすみ、今後は更に多様化していくことが考えられます。
ご存じの方も多くいらっしゃると思いますが参考までに・・・。

直葬 これは宗教儀礼がなく火葬のみを行うスタイルです。
直葬は簡素なかたちで迅速に処理することを目的としています。
(通夜・葬儀告別式の伝統的な儀式はありません)

一般葬 (家族葬系) こちらは弔いの時間を縁ある方で共有し、通夜・葬儀をしっかり行うスタイルです。一般葬(家族葬)は故人様を偲ぶ時間を大切に、感情的な繋がりを重視します。

今ではポータル系葬儀社様のCMも増加し、ネットで内容を確認することや、資料請求も容易にできる時代となり、非日常的である葬儀に関する情報が簡単に取得できるようにもなりました。そのうえで事前相談をされる際にお勧めさせていただきたいこととして、葬儀会社担当者と実際にやり取りをしてみることで、可能であれば葬儀会社に足を運んでみることで、これだけでもご相談者様の立場で提案をされているのか、会社としてどうお葬式に向き合っているのかが分かり、大切な方の葬送を考えるうえで大変参考になります。

当たり前の話ですが、お葬式をやり直すことはできず、たまたまインターネットを開いて「早い、安い、簡単」といった理由だけで決めるのではなく、その根拠を理解され、しっかりと話を聞いたうえで決定されることが、後悔のないお葬式をすることにも繋がってくると思います。

私たちが大切にせねばならないのは、お葬式を決める方の大切な「ご予算とお気持ち」を傾聴し、何年経った後にもご家族様が「感謝でお見送りをすることができた」というお気持ちをもっていただき、人としてあるべきご縁が継承されていくことです。

今後にあるべき姿の葬祭業とは単にお葬式を滞りなく済ませて終了ではなく、おひとりおひとりのニーズに見合う創造とご提案を行い、ご葬儀後の様々なご要望やお困りごとに迅速にサポートできる体制であることが求められていると考えております。

袖振り合うも多生の縁



しだいに満開の桜から葉桜となり、新緑の季節となつてまいりましたがいかがお過ごしでしょうか。

4月は入学式や新たなスタートや出逢いがあり、5月はそんな日々慣れてきた頃かと思えます。

生きていくと色々なことがありますよね。

出逢いといえばご存知の方も多いと思いますが日本の古くからのことわざ「袖振り合うも多生の縁(そでふりあうもたしょうのえん)」というものがあります。

辞書で意味を調べると、「道を行く時、見知らぬ人と袖が触れ合う程度のことも前世からの因縁による。どんな小さなこと、ちょっとした人との交渉も偶然に起こるのではなく、すべて深い宿縁によって起こるのだということ」と書かれています。人と人の縁は偶然ではなく、前世からの深い因縁によって起こる、ということわざです。

また、普段はご先祖様の影響を受けていることを意識していないかもしれませんが、私にはお父さんとお母さんがいて、私のお父さんにもお父さん(私から見たら祖父)、私のお母さんにもお母さん(祖母)がいる、祖父、祖母にも・・・

そして10代遡るとその数なんと2046人!その中のひとりでも存在しなければ今、私はいない・・・

これを想像していただきながら2046人という数字をみると、命の繋がりや多くの不思議なご縁を感じるかもしれません。日常起きる色々な出来事に、嬉しかったり、悲しかったり、その他の感情だったり色々な感情が出てきた時、その感情が、もしご自身を動きにくくしてしまうなら、是非一度立ち止まり、繋がりを感じながら「この出逢いはどんな意味があるのだろう」と問いかけ、このことわざや繋がりを思い出してもらえたら嬉しいです。

皆様の一日が、より良い一日となりますように。



なんば

お葬儀から知る私たちの生命の大切さ

今回私がお手伝いさせていただいたのは、幼く、ご病気で亡くなられたお子様のお葬儀でした。人生の半分以上の時間をご病気と闘っていらっしゃいました。

以前にもお手伝いさせていただいたことのあるご家族で、その際に病気と闘っていることをお聞きしておりました。

お葬儀の依頼を直接お電話いただき、自宅療養されていたためご自宅へと訪問させていただきました。ご自宅へお伺いすると、顔の知ったご家族が迎えてくださり、部屋を進むと少し口を開けて優しいお顔で眠りついている姿が見え、お話をさせていただく前に思わず、涙してしまいました。その後お話をさせてもらい、ご両親からは、「寂しいけれども、病気と闘ってきた自分の子どもをお疲れ様という気持ちで温かく送ってあげたい」とのご意向をお聞きしました。

お寺様にもご意向をお伝えし、祭壇は普段とは少し違い、明るく楽しそうと思える祭壇をご準備させていただきました。

思い出のお写真もたくさんご準備していただき、式場の壁一面に飾り、回りには風船を準備し、どこか子ども部屋のような雰囲気となりました。

式場の準備ができ、ご家族にお部屋を見ていただいた際に、満面の笑みで喜んでくださったのが、私自身今回のお葬儀のなかで印象的な出来事でした。

今までもお葬儀のお手伝いをさせてもらった中で、式場を見て感動して泣いていただいたことはありませんでした。



しかし、あれほどの笑顔で喜んでいただけた経験はなかったように思います。その顔を見て、温かく送るといふ気持ちに少しでも答えられたかなと思わせていただきました。

お葬儀までの準備の時間に、ご家族に亡くなられたお子様について、たくさんのお話をお聞きしました。闘病中に入院していた病院内や様々な場所へ訪れた際に、その子のことを好きになり、ファンになれる方がたくさん居たそうです。

そして、私自身もお話をお伺いし、たくさんの写真を見せていただき、すっかりファンにさせていただきました。

私にも、今回亡くなられたお子様と同じぐらいの娘がいます。もしも、自分の娘がと考えた時に、どれだけお葬儀の準備をしても「完成」はないと感じました。

大切な家族を亡くされた時の喪失感に代わるものなどなく、自分たちにはそれをどれだけ軽くしてあげて送りだすお手伝いができているのか・・・

今、自分たちが生きていて、日常を何もなく過ごさせていることの大切さ・・・人が亡くなることに関して年齢は関係なく、生死の尊さと真摯に向き合い、このお葬儀という仕事の一件一件を大切にお手伝いさせていただき、日々生かされていることに感謝し、一日一日を大切に生きていかなければならないと社員一同、勉強させていただきお葬儀となりました。



いづえ